

全体総括

○計画期間：平成27年4月～令和2年3月（5年）

1. 計画期間終了後の市街地の概況

平成27年3月27日に基本計画の認定を受け、「協働による新たな賑わい創出」をテーマに掲げ、中心市街地の活性化に取り組んできた。

まず、掛川駅周辺では、掛川駅前東街区市街地再開発事業が全て完成し、にぎわい広場を多くのイベントに活用し、来街目的やきっかけ作りを行い、多くの集客が出来た。また、掛川駅前西街区は、公募によって売却先を決定・売却が完了し、開発概要及びスケジュールも提示され、一定の進捗を見せた。その他に、新たな集客施設として、空き店舗に大衆演劇場が開業するなど、今後は更なる集客に期待している。

掛川城を中心とした歴史・文化ゾーンでは、誘客施設と連携し、各施設の入場料や商店街で特典が得られる「まる得パスポート」を継続実施し、更に、大日本報徳社では公益社団法人として施設を一般やイベントなどにも開放するなど、利用者の増加施策を展開して、にぎわいを見せている。

一方で、駅と掛川城を結んだ中間にある商店街では、週末などのイベントでは多くの来場者があるものの、「平日の昼間の人通りが少ない」などの声はまだ上がっている。そのような状況ではあるが、若手店主がまちなかでクラフトビール（地ビール）の醸造所を造り、お茶やイチゴなど地元特産品を活かしたクラフトビール開発が進み、クラフトビールフェスを開催し、多くの来場者を集めている。更に、空き家対策の専門チームのNPO法人が商店街と連携して空き店舗をシェアオフィスにリノベーションし、新たな人の流れを作っており、今後の活動にも期待している。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

（基準日：毎年度1月1日）

（中心市街地 区域）	平成26年度 （計画前年度）	平成27年度 （1年目）	平成28年度 （2年目）	平成29年度 （3年目）	平成30年度 （4年目）	令和元年度 （5年目）
人口	1,421人	1,376人	1,515人	1,501人	1,496人	1,463人
人口増減数	△58人	△45人	139人	△14人	△5人	△33人
自然増減数	△25人	△8人	△13人	3人	△14人	△23人
社会増減数	△33人	△37人	152人	△17人	9人	△10人
転入者数	10人	44人	178人	11人	62人	31人

2. 計画した事業等は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか。(個別指標ごとではなく中心市街地の状況を総合的に判断)

【進捗・完了状況】

- ① 概ね順調に進捗・完了した ②順調に進捗したとはいえない

【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
②若干の活性化が図られた
③活性化に至らなかった(計画策定時と変化なし)
④活性化に至らなかった(計画策定時より悪化)

3. 進捗状況及び活性化状況の詳細とその理由(2.における選択肢の理由)

計画していた 51 事業は主要事業を中心に遅滞なく実施できたため、概ね順調に進捗・完了したといえる。着手率は 88%で未着手合計は6事業である。

これらの取り組みにより、3つの目標のうち「まちなかの賑わい創出」は目標値を達成することが出来た。「まちなか居住の促進」は目標値の 88%、「まちなか交流人口の増加」は 93%で目標達成することが出来なかった。

「まちなか居住の推進」については、マンション建設によって人口が一時的に増えたが、少子高齢化の流れが大きく自然減が加速し、さらに西街区の開発遅延及び事業概要とスケジュールが変更になり、本計画期間内の完了が出来なかったことが上げられる。

「まちなか交流人口の増加」は、令和元年度において、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、3月に入り施設を休館、閉鎖したことの影響により、目標の達成に至らなかったことが上げられる。ただし、計画初年度の平成 27 年度から平成 30 年度まで目標値を達成していることから、今後において目標数値を再度達成していくことは可能と考えられる。

4. 中心市街地活性化基本計画の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
②若干の活性化が図られた
③活性化に至らなかった(計画策定時と変化なし)
④活性化に至らなかった(計画策定時より悪化)

【詳細を記載】

掛川市中心市街地活性化協議会としては、中心市街地の長年の懸案であった掛川駅前東街区市街地再開発事業が完了し、基本計画に定められた事業を、行政や関係団体と協働しながら中心市街地活性化を推進した結果、計画に位置付けた事業等は概ね順調に実施されたと考える。

しかし、東街区の商業施設や飲食店の新規開業は見られるものの、物販店にあっては、既存商店主の高齢化、後継者難が課題となるなど引き続き商店街を取り巻く状況はきわめて厳しい状況である。

全体を通すと居住人口に関する部分以外は、概ね順調に進捗していると評価するが、それ以外の評価もあるため、これまで実施してきた事業の有効活用や、中心市街地全体の情報発信にも取り組み、計画終了後も事業を継続して実施していくなど、引き続き最大限の努力が必要と判断する。

5. 市民意識の変化

【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
- ②若干の活性化が図られた
- ③活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）
- ④活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

【詳細を記載】

平成 28 年度の掛川市市民意識調査「中心市街地の活性化と公共交通網の充実」の調査結果では、「最優先・できれば優先」が 67.1%「満足・まあ満足」が 28.2%であり、優先度は高いが満足度が低いとの結果が出ていた。しかし、令和元年度の市民意識調査におけるポートフォリオ分析では、満足度 53.9、優先度が 63.9 と満足度が高くなり、「積極的に現状維持すべき施策である」という結果となった。

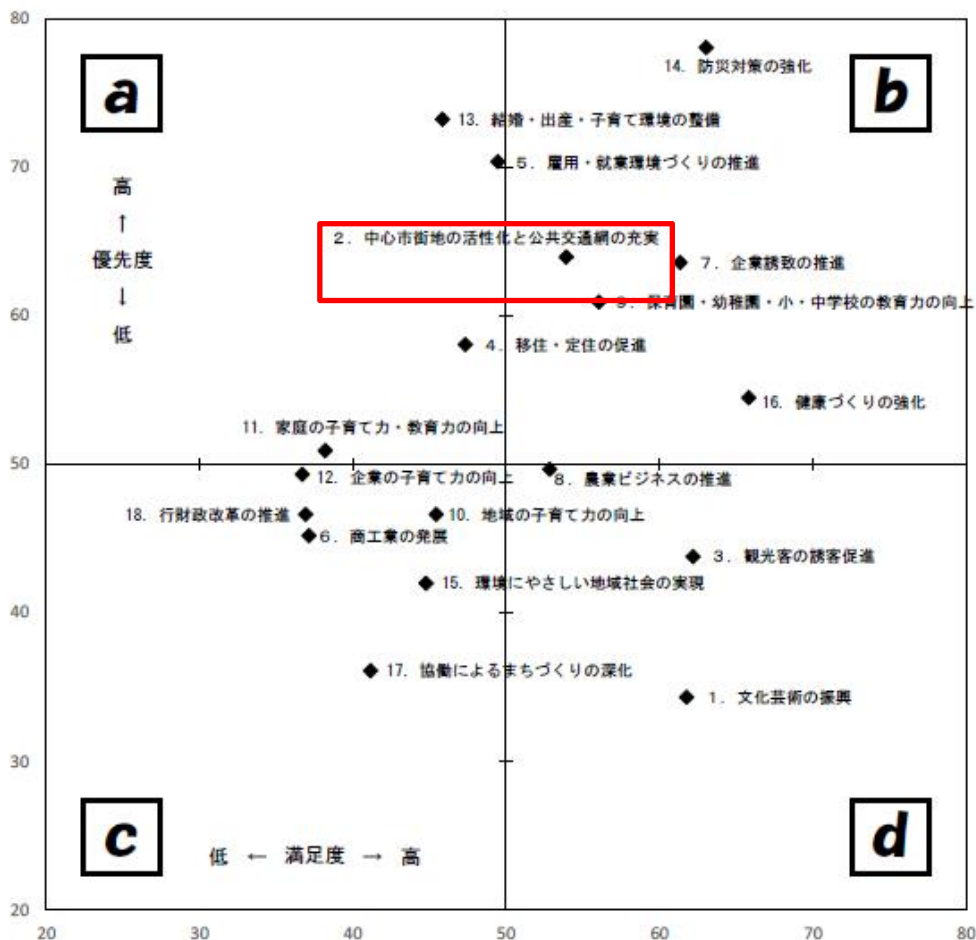
〈令和元年度 市民意識調査 抜粋〉

プロジェクトに対する満足度と優先度

満足度と優先度のポートフォリオ分析

重要プログラムの満足度と優先度を点数化して偏差値を算定し、縦軸に優先度、横軸に満足度をとってグラフ化した。各ゾーンに位置付けられた施策は、18 プロジェクトの比較の中では概ね次のように評価されたと考えられる。

- aゾーン：満足度が低く、優先度が高い →積極的に投資する施策分野
- bゾーン：満足度・優先度がともに高い →積極的に現状を維持する施策分野
- cゾーン：満足度・優先度がともに低い →現状を維持し課題を注視する施策分野
- dゾーン：満足度が高く、優先度が低い →投資量の縮小検討が可能な施策分野



6. 今後の取組

本市の中心市街地は、掛川市および静岡県中東遠地区の玄関口としての新幹線駅、また、東海道の宿場町、城下町として発展し、歴史と文化、伝統が蓄積された“地域個性”がある。これらを受け継ぎ、地域の個性と特性を活かしつつ、これからの掛川市に新たな賑わいの創出を目指す。

現在は「掛川駅前西街区市街地再開発事業」の計画が進行中であり、民間活力を活用し、事務所、こども館、多目的ホール、商業施設、駐車場等の整備を行う。

本市では、引き続き中心市街地の活性化を図るため、現在取り組んでいる事業効果の検証を行うことにより、次のステージへのステップアップとして、中心市街地への集客と魅力創出を図る。

また、今後において掛川駅前西街区再開発事業が進んでいくことにより、中心市街地の交流人口が増えていくため、駅前ゾーンと掛川城周辺の歴史文化ゾーンの回遊性を創出する仕組みを展開する。

(参考)

各目標の達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値	(参考) 目標の80%	最新値		達成状況
					(数値)	(年月)	
街なかの賑わいの創出	歩行者通行量	5,285人	6,750人	6,457人	8,833人	R1.5	<u>a</u>
まちなか居住の促進	居住人口	1,459人	1,660人	1,620人	1,460人	R2.3	<u>b2</u>
まちなか交流人口の増加	交流人口	469,834人	541,000人	526,767人	507,805人	R2.3	B2

注) 達成状況欄 (注: 小文字の a、b1、b2、c は下線を引いて下さい)

A (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。さらに、最新の実績でも目標値を超えることができた。)

a (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値を超えることができた。)

B1 (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。また、最新の実績では目標値の80%を達成。)

B2 (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値の80%には及ばず。)

b1 (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値の80%を達成。)

b2 (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値の80%には及ばず。)

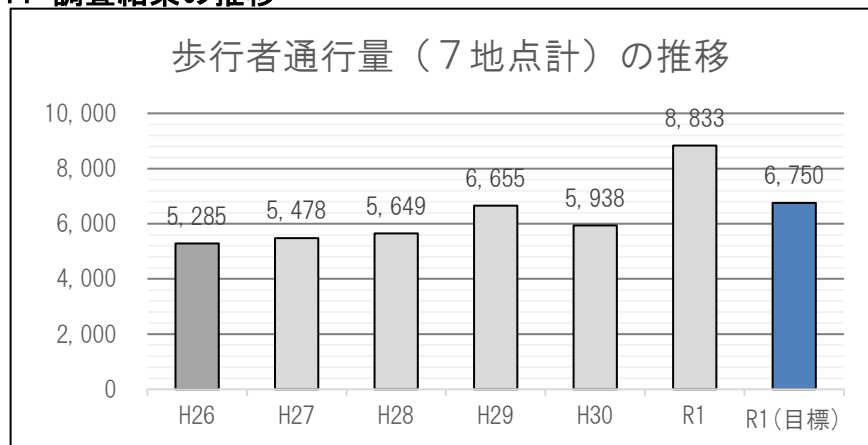
C (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

c (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

個別目標

「歩行者通行量」 ※目標設定の考え方認定基本計画 P. 80～P. 83 参照

1. 調査結果の推移



年	(単位：人)
H26	5,285 (基準年値)
H27	5,478
H28	5,649
H29	6,655
H31	5,938
R 1	8,833
R 1	6,750 (目標値)

※調査方法：交通量調査

※調査月：毎年度5月（10時～20時の10時間）

※調査主体：かけがわ街づくり株式会社（第3セクター）

※調査対象：歩行者、自転車、バイク、自動車の各通行量（休日及び平日）

指標対象は平日の歩行者

7地点 ①緑橋 ②ねむの木ギャラリー前 ③中町伊藤菓子舗前
④連雀みらいふ前 ⑤駅通り TOMBILD2 前（旧梅酒屋）
⑥駅通り we+138 前 ⑦掛川駅南北自由道路

2. 目標の達成状況【 a 】

歩行者通行量の増加に向けた各事業については、西街区事業の進捗が遅れ完了に至らなかったものの、R1年度は目標数値を達成したため、進捗状況はaとした。

3. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①. 東街区商業集積整備事業（弥栄かけがわ株）

事業実施期間	平成26年度～平成27年度【済】
事業概要	掛川駅前東街区第一種市街地再開発事業により整備される商業施設を取得し、不足業種や集客力の高い業種による商業集積を形成する。店舗床面積 約 1,670 m ²
国の支援措置名及び支援期間	特定民間中心市街地経済活力向上事業計画の経済産業大臣認定（事業）平成26年度～平成27年度 商店街まちづくり事業（中心市街地活性化事業）平成26年度～平成27年度
目標値・最新値及び達成状況	平成27年10月1日に開業したが、直営が厳しくなり、キーテナントとして業務用食品スーパーが出店した。 調査地点6目標 1,731 人：事業目標 1,227 人⇒実績 2,179 人 ※目標達成に寄与する主要事業の②、③、④の実績を含む。
達成した（出来なかった）理由	この店舗前の歩行者通行量は、鮮魚、精肉部門の撤退などがあつた際に落ちたが、リニューアルオープンした業務用食品

	スーパーに、一般客が増え始め売上が徐々に上昇している。この客数の増加が歩行者通行量の増加にもつながるなど、目標値に達成した。
計画終了後の状況 (事業効果)	事業として誘導した店舗以外でも、テナントの入れ換えがあったが、空きテナントとなっている部分もあり、昼間の賑わいに繋がるところまでいかない。
事業の今後について	空きテナントに新たな店舗を誘導し、日中の賑わい創出に繋げる。

②. 掛川駅前西街区開発事業（島田掛川信用金庫）

事業実施期間	平成 30 年度～令和 4 年度【実施中】 [認定基本計画：平成 29 年度～平成 30 年度]
事業概要	民間活力を活用し、事務所、こども館、多目的ホール、商業施設、駐車場等の整備を行う。敷地面積 3,134.41 m ²
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
目標値・最新値及び達成状況	平成 27 年度に市議会特別委員会において、西街区の事業手法は、公募型民間開発が望ましいと報告を受け、平成 30 年度に公募を実施し、売却先が決定、所有権移転まで実施した。現在、事業者は基本設計作成のため関係機関と協議を行っており、効果は発現していない。 調査地点6目標 1,731 人：事業目標 167 人⇒実績 0 人
達成した(出来なかった)理由	平成 30 年度に、民間への土地売却が決定したが、事業着手まで至らなかった。
計画終了後の状況 (事業効果)	事業が竣工していないため、効果は発現していない。
事業の今後について	西街区に関して、計画期間内の効果発現は見込めないため、東街区で整備された「にぎわい広場」を活用したイベントを実施し、来街するきっかけ作りを行う。

③. 掛川駅前東街区第一種市街地再開発事業（掛川駅前東街区市街地再開発組合）

事業実施期間	平成 25 年度～平成 28 年度【済】
事業概要	掛川駅前になぎわい掛川の顔とすべく、中心市街地におけるにぎわい再生のための中心施設となるリーディングプロジェクトとして、商業施設、にぎわい広場、駐車場、住宅 77 戸を整備する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業） 平成 25 年度～平成 28 年度
目標値・最新値及び達成状況	平成 28 年 8 月末に完了し、同年 9 月からマンションの入居が始まり、77 戸全て入居は完了している。 調査地点6目標 1,731 人：事業目標 287 人⇒実績 2,179 人 (事業目標内訳：287 人=東街区分:160 人+西街区分:127 人) ※目標達成に寄与する主要事業の①、②、④の実績を含む。
達成した(出来なかつた)	新幹線、東海道線、天竜浜名湖線が停車する掛川駅が徒歩 4

った) 理由	分の距離にあり、駅を使う人にとっては魅力が高い集合住宅であったことなどから、77戸全て入居となった。
計画終了後の状況 (事業効果)	入居者の家族構成が変化していくため居住者数は変化していくが、空室が無いため居住者数の増加促進に繋がっている。
事業の今後について	西街区に関して、計画期間内の効果発現は見込めないため、東街区で整備された「にぎわい広場」を活用したイベントを実施し、来街するきっかけ作りを行う。

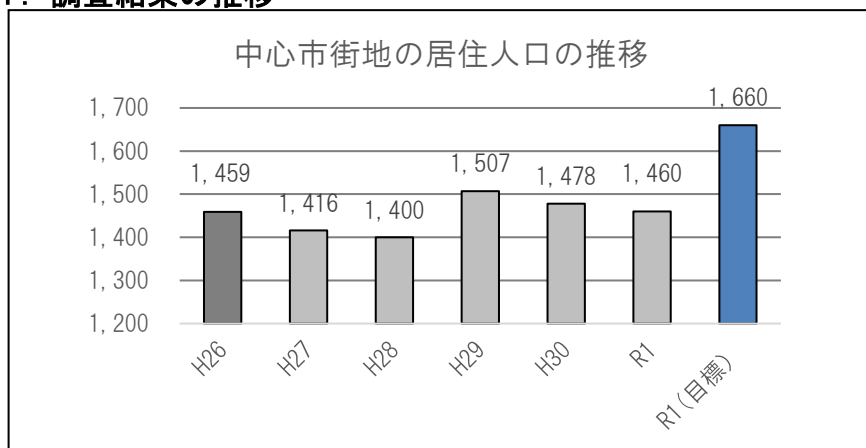
④. 掛川駅前西街区開発事業（島田掛川信用金庫）

事業実施期間	平成30年度～令和4年度【実施中】 西街区：[認定基本計画：平成29年度～平成30年度]
事業概要	民間活力を活用し、事務所、こども館、多目的ホール、商業施設、駐車場等の整備を行う。敷地面積3,134.41㎡
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
目標値・最新値及び達成状況	平成30年度に公募を実施し、売却先が決定、所有権移転まで実施した。現在、事業者は基本設計作成のため関係機関と協議を行っている。しかし、基本計画期間内の完成が出来ず、またマンション計画も無いため、西街区の居住者分の通行量は見込めない。 調査地点6目標 1,731人：事業目標 287人⇒実績0人 (事業目標内訳：287人=東街区分:160人+西街区分:127人) ※目標達成に寄与する主要事業の①、②、③の実績を含む。
達成した(出来なかった)理由	民間事業者の事業計画内にマンション計画が無いため、西街区の居住者分の通行量は見込めない。
計画終了後の状況 (事業効果)	工事着工前であり、竣工していないため効果は発現していない。
事業の今後について	西街区に関して、計画期間内の効果発現は見込めないため、東街区で整備された「にぎわい広場」を活用したイベントを実施し、来街するきっかけ作りを行う。

4. 今後の対策

主要事業は西街区再開発事業を除き、概ね順調に進捗し目標達成に繋がった。今後は掛川駅前東街区市街地再開発事業により整備された「にぎわい広場」を活用して、誘客イベントを商店街と一体となり開催し、回遊性を持たせることで、中心市街地全体に効果を波及させ賑わい創出へ繋がりたい。

1. 調査結果の推移



年	(単位)
H26	1,459 (基準年値)
H27	1,416
H28	1,400
H29	1,507
H30	1,478
R1	1,460
R1	1,660 (目標値)

※調査方法： 住民基本台帳人口（毎年4月1日現在：中心市街地区域）

※調査月： 令和2年4月1日

※調査主体： 掛川市

※調査対象： 中心市街地区域内の居住人口

2. 目標の達成状況【 b₂ 】

居住人口の増加に向けた各事業については、平成28年度に東街区事業のマンション棟が完成したことにより、平成29年度は上昇したが少子高齢化の加速が大きく、数値目標を達成することが出来ず進捗状況はb₂となった。

3. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①. 空き地利用促進事業（掛川市・かけがわ街づくり株）

事業実施期間	平成27年度～平成31年度【未】
事業概要	中心市街地内の空き地、未利用地での建物建設に対して支援を行い、住宅の誘致促進を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
目標値・最新値及び達成状況	増加傾向にあるまちなかの空き地の活用を促進し、土地所有者や事業者の投資意欲を高めることにより、新たな住宅を増加させ、居住人口の増加に寄与する。 目標 50人⇒実績 0人
達成した（出来なかった）理由	市からの助成支援策が出来ず、事業を実施できなかった。
計画終了後の状況（事業効果）	事業未実施のため、効果は発現していない。
事業の今後について	平成27年度から、空き店舗対策の一環としての補助事業が出来たので、今後はそれを拡充し、中心市街地活性化協議会とも連携しながら、空き地、未利用地に対する支援を出来るようにする。

②. 掛川駅前東街区第一種市街地再開発事業（集合住宅整備）（掛川駅前東街区市街地再開発組合）

事業実施期間	平成 25 年度～平成 28 年度【済】
事業概要	掛川駅前にはさわしい掛川の顔とすべく、中心市街地におけるにぎわい再生のための中心施設となるリーディングプロジェクトとして、商業施設、にぎわい広場、駐車場、住宅を整備する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業） 平成 25 年度～平成 28 年度
目標値・最新値及び達成状況	平成 28 年 9 月からマンションの入居が始まり、77 戸全ての入居が完了しており、居住人口の減少幅を抑える効果、高齢化率も市内トップから下がるなどの効果があった。 目標 359 人：H29 栄町人口 188 人⇒R1 栄町実績 199 人（目標内訳：359 人=東街区分:160 人+西街区分:199 人） ※目標達成に寄与する主要事業の③の実績を含む。 ※東街区マンションのみの人口把握が出来ないため、所属する行政区の人口とする。 ※参考：栄町人口 H28.4 月 50 人 ※参考：第二地区高齢化率 H28.4：38.7% H29.4：36.3% H30.4：36.7% H31.4：36.3% R2.4：36.5%
達成した（出来なかった）理由	新幹線、東海道線、天竜浜名湖線が停車する掛川駅が徒歩 4 分の距離にあり、駅を使う人にとっては魅力が高い集合住宅であったことなどから、77 戸全て入居となり、東街区分の目標人口を達成した。
計画終了後の状況（事業効果）	入居者の家族構成が変化していくため居住者数は変化していくが、空室が無いため居住者数の増加促進に繋がっている。
事業の今後について	周辺空き地（青空駐車場含む）の集合住宅への利活用や老朽建物の更新を推進するために、地元で勉強会等を開催し、街なか回帰を推進できるよう機運醸成を図る。

③. 掛川駅前西街区開発事業（島田掛川信用金庫）

事業実施期間	平成 30 年度～令和 4 年度【実施中】 （掛川駅前西街区開発事業） 西街区：[認定基本計画：平成 29 年度～平成 30 年度]
事業概要	民間活力を活用し、事務所、こども館、多目的ホール、商業施設、駐車場等の整備を行う。敷地面積 3,134.41 m ²
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
目標値・最新値及び達成状況	平成 30 年度に公募を実施し、売却先が決定、所有権移転まで実施した。現在、事業者は基本設計作成のため関係機関と協議を行っているが、マンションは計画上に無いため、効果は発現しない。 目標 359 人⇒実績 0 人 （目標内訳：359 人=東街区分:160 人+西街区分:199 人）
達成した（出来なかった）理由	民間事業者の事業計画内にマンション計画が無いため、西街区の居住者分の人口増加は見込めない。

計画終了後の状況 (事業効果)	事業未実施のため、効果は発現していない。
事業の今後について	周辺空き地（青空駐車場含む）の集合住宅への利活用や老朽建物の更新を推進するために、地元で勉強会等を開催し、街なか回帰を推進出来るよう機運醸成を図る。

4. 今後の対策

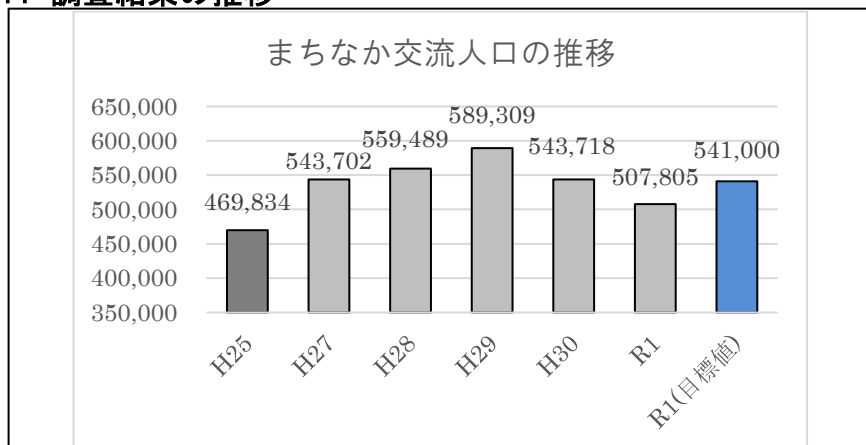
令和2年4月現在では、居住人口が昨年よりも18人減少して1,460人となったが、通常よりも低い減少傾向であり、再開発事業の効果が継続していると判断する。

しかし、西街区が住居を除いた開発計画となり、今後の居住人口の目標達成は厳しい見通しとなったが、西街区の開発が決定したことで、周辺の空き地などにアパートやマンションなど民間事業者の投資を呼び込むようソフト事業を推進していく。

「まちなか交流人口（掛川城周辺施設利用者数）」

※目標設定の考え方基本計画 P88～P92 参照

1. 調査結果の推移



年	(単位)
H25	469,834 (基準年値)
H27	543,702
H28	559,489
H29	589,309
H30	543,718
R1	507,805
R1	541,000 (目標値)

※調査方法：掛川市による各施設への聞き取り調査

※調査月：令和2年4月

※調査主体：掛川市

※調査対象：掛川城天守閣（御殿）、二の丸茶室、竹の丸、ステンドグラス美術館、二の丸美術館
中央図書館、大日本報徳社

2. 目標の達成状況【 B2 】

計画初年度から目標数値を達成し、その後も概ね順調に進捗しており、平成29年度は市内で地域芸術祭が行われたことによりピークを迎えている。令和元年度は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、3月に入り施設を休館、閉鎖した影響により、目標の達成に至らなかった。ただし、令和元年度以外は目標値を達成していることから、今後において目標数値を再度達成していくことは可能と考えられる。

3. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①. 掛川城等施設管理運営事業（指定管理者：(株)KTS ホスピタリティ公園管理事務所）

事業実施期間	平成26年度～【実施中】
事業概要	掛川城、二の丸茶室、竹の丸の各施設を、民間企業の指定管理により一元管理することで経験と実績、企業ならではのノウハウを生かした事業を展開する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
目標値・最新値及び達成状況	令和元年度においても、施設を利用した多彩なイベントを開催したが、3月に入り新型コロナウイルスの影響で施設が休館したため、昨年度と比較し1万1千人以上減少している。 目標 175,000人⇒実績 147,911人
達成した（出来なかった）理由	夏休み中の猛暑や秋の行楽シーズンの大型台風、新型コロナウイルスの影響等で観光客が減少した。
計画終了後の状況（事業効果）	民間事業者からの提案を受け、入館者数の増加を図る。

事業の今後について	まる得パスポートをディステーションキャンペーンに組み込むなど、観光客の増加を図って行く。
-----------	--

②. ステンドグラス美術館施設管理運営事業（指定管理者：掛川市生涯学習振興公社）

事業実施期間	平成 27 年度～【実施中】
事業概要	民間企業の指定管理により、経験と実績、企業ならではのノウハウを生かした事業を展開する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
目標値・最新値及び達成状況	平成 27 年 6 月に開業し、入館者数は 27 年度 5.2 万人を超えたがそれ以降減少。令和元年度は 3 月に入り新型コロナウイルスの影響で施設が休館したため、約 2.3 万人となった。目標 35,000 人→実績 22,694 人
達成した（出来なかった）理由	夏休み中の猛暑や秋の行楽シーズンの大型台風、新型コロナウイルスの影響等で観光客が減少した。
計画終了後の状況（事業効果）	教育面での普及を図るなど、指定管理者と協力し、周辺施設と併せた入館者増に力を入れていく。
事業の今後について	ワークショップの開催やまる得パスポートをディステーションキャンペーンに組み込むなど、観光客の増加を図って行く。

③. 大日本報徳社利用促進事業（大日本報徳社）

事業実施期間	平成 27 年度～【実施中】
事業概要	掛川城等施設の指定管理者等と連携し、国指定重要文化財である大講堂などの利用者の増加を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
目標値・最新値及び達成状況	令和元年度は、各種イベントに会場を提供するなど、一般客の来場機会を増やししながら、施設利用者の増加を図っている。施設有料入館者数は、取り組みの効果があり、約 2.5 万人となった。目標 4,500 人→実績 24,731 人 ※有料入館者数を目標としていたが、実績はイベント等を含む入館者数の報告となり、剥離が生じている。
達成した（出来なかった）理由	各種イベントや会議スペースとして会場を提供するなど、目標を達成した。
計画終了後の状況（事業効果）	引き続き周辺施設との連携を図りながら誘客に繋げていく。
事業の今後について	掛川城等施設の指定管理者等との連携を継続し、周辺施設の観光客を呼び込む直営イベントなどの検討をし、誘客に繋げる。

④. 中央図書館利用促進事業（掛川市）

事業実施期間	平成 27 年度～【実施中】
事業概要	掛川城等施設の指定管理者等と連携することで、施設利用者、来場者の増加に繋げる。

国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
目標値・最新値及び達成状況	令和元年度は、独自イベントも多数開催し、各種イベントとも連携し、来場者は約 28.8 万人となった。 目標 318,000 人⇒実績 288,547 人
達成した(出来なかった)理由	新型コロナウイルスの影響で施設を閉館したため来場者が減少した。
計画終了後の状況(事業効果)	計画期間内で増減はあるものの、来場者は一定の水準で推移している。
事業の今後について	掛川城等施設の指定管理者等との連携を継続し、周辺施設の観光客を呼び込む直営イベントなどの検討をし、誘客に繋げる。

⑤. 二の丸美術館利用促進事業(指定管理者:掛川市生涯学習振興公社)

事業実施期間	平成 27 年度～【実施中】
事業概要	二の丸美術館を民間企業への指定管理により、経験と実績、企業ならではのノウハウを生かした事業を展開する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
目標値・最新値及び達成状況	来場者は約 2.4 万人となった。 目標 25,000 人⇒実績 23,922 人
達成した(出来なかった)理由	夏休み中の猛暑や秋の行楽シーズンの大型台風、新型コロナウイルスの影響で施設閉館等により観光客が減少した。
計画終了後の状況(事業効果)	計画期間内で増減はあるものの、来場者は一定の水準で推移している。
事業の今後について	誘客を見込める子供向けの企画展の開催や、まる得パスポートをディスティネーションキャンペーンに組み込むなど、観光客の増加を図って行く。

4. 今後の対策

平成 27 年 6 月に開業したステンドグラス美術館は、開業年は目標値を大きく上回る入館者数であったが、その後は減少している。それでも、その他の施設は、掛川城等の周辺施設や商店街と協働で観光パスポート「かけがわまる得パスポート」を発行する取り組みを継続実施するなど、平成 27 年度から 30 年度にかけて交流人口(施設利用者等)の目標を達成した。令和元年度は新型コロナウイルスの影響もあり目標達成とならなかったが、今後も継続して連携を図り、各施設全てが施設毎の目標を達成するよう実績を伸ばしていきたい。